

事務事業名	上水道施設(給水施設)の維持管理事業	事務事業No.	682 - 4
-------	--------------------	---------	---------

1. 基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
企業局	上水道課	建設係	主任	片峯 龍一	課長	大庭 宗嗣
施策体系	総合計画	政策	6	都市基盤・生活基盤		
		施策	8	上下水道の整備		
	基本事業	2	水道施設の維持・管理			
その他の計画	個別計画	なし				
根拠法令・条例・要綱等	水道維持管理指針「日本水道協会」					
事業開始年度	不明	事業終了年度	なし	事務事業類型	施設維持管理事業	
実施手法	一部委託	補助金等の支給	なし	実施計画期間	なし	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と運動）

概要	飯塚市給水区域内の配水管及び、給水管について計画的に漏水調査を行い、漏水箇所の早期発見、即時修繕をすることで、重大な緊急的断水事故を未然に防ぐ。また、早期修繕を行うことによる配水管等の長寿命化も進め、水道事業の経営安定化を図る。					
対象	働きかける相手・もの	飯塚市給水区域内の配水管及び給水管				
手段	方法・働きかけ(活動指標)	有収率が低い配水区域及び、漏水に伴う修繕が多発している区域を特定し、更に管の布設年数などから綿密な漏水調査計画を立てることにより、漏水箇所の早期発見数を増やし、即時に修繕工事を行う。				
意図	対象をどのようにしたいか(成果指標)	漏水箇所の早期発見件数を増やし、即時修繕工事を行うことにより無効水量を減らし、有収率を向上させる。また、早期に修繕することにより、配水管等の延命化、長寿命化も図る。				

3. 活動指標（決算成果説明書と運動）

指標名	単位	指標の説明(算式等)	前年度実績	本年度実績	次年度見込
各戸音聴による漏水調査件数	件	各戸に設置された水道メーター器(給水管)を音聴調査した件数	30,072	18,000	18,200
管路音聴による漏水調査延長	km	道路下に埋設された配水管を音聴調査した延長	277	350	350

4. 成果指標（決算成果説明書と運動）

指標	有収率(年間総有収水量÷年間総配水量×100)	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
		%	90	90	90	90
説明	漏水箇所の早期発見・早期修繕による有収率への効果	方向性	達成目標年度	実績	85.9	85.2
		増加	毎年度			
指標	漏水箇所発見数	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
		件	100	100	100	100
説明	漏水調査による成果	方向性	達成目標年度	実績	151	146
		増加	毎年度			
指標		単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
説明		方向性	達成目標年度	実績		

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と運動）

経費区分	一般会計	-	特別会計	-				
予算科目・事業	会計	1 水道事業会計	款	2 水道事業費用	項	1 営業費用	目	2 配水及び給水費
	大	16 委託料	中	-	他	-	事業	
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)	前年度実績(千円)	本年度実績(千円)	増減理由(10%以上の場合)		次年度予算(千円)		
	正職員	3.40 人 26,548	4.00 人 31,784			4.00 人 31,784		
	任期付職員(保育士)	0.00 人 0	0.00 人 0			0.00 人 0		
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00 人 0	0.00 人 0			0.00 人 0		
	任期付職員(CW・水質)	0.00 人 0	0.00 人 0			0.00 人 0		
	再任用フル	2.40 人 8,912	0.80 人 3,641			0.80 人 3,641		
	再任用短	0.00 人 0	0.00 人 0			0.00 人 0		
	1級フル	0.00 人 0	0.00 人 0			0.00 人 0		
	1級パート	0.30 人 595	0.00 人 0			0.00 人 0		
	2級パート	0.05 人 133	0.00 人 0			0.00 人 0		
人件費計(A)	36,188		35,425		35,425			
事業費	直接事業費(B)	102,726		119,036		104,200		
	総事業費(A+B)	138,914		154,461		139,625		
直接事業費のうち の主な歳出内訳	漏水調査委託料	19,742		20,333		22,400		
	緊急修繕委託料	82,984		98,703		81,800		
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)	0		0		0		
	国・県支出金	0		0		0		
	市債	0		0		0		
	一般財源	138,914		154,461		139,625		
その他()								

配水幹線漏水による緊急修繕委託料の増

6. 事務事業の事後評価★		
評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価	高い	漏水調査や緊急修繕を行うことで、漏水の早期発見や断水時間の短縮化が図れ、有収率の向上や水道利用者へのサービス向上ができています。また、早期修繕を行うことで、配水管等の長寿命化も図れている。
効率性 評価	高い	漏水調査においては、現在より更に効率化を図る新たな調査方法などを調査研究している。しかし、現在の調査方法からの変更までは期間を要するため、まずは、漏水発見件数の多い路面音聴調査の割合を増やし、早期発見数の向上を図りたい。
有効性 評価	高い	水道管の老朽化については全国的な問題にもなっており、本市においても同じ状況である。安定した水の供給は水道事業者の責務であるため、この事業は引き続き必要不可欠である。また、漏水の早期発見、修理を行うことにより、無収水量を減らし、配水管及び給水管の長寿命化も図っている。

7. 前年度評価時の計画と実績			
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策	マッピングシステムの旧不要データの選別、削除を適宜に行い、データ更新やシステムの運用がスムーズに行え、各業務に支障をきたさないようにする。また、未調査区域をはじめ、AIを活用した埋設管の劣化予測診断による危険区域、漏水多発や低有収率区域などを選別し、優先的に漏水調査を行い、早期発見、修理を行い有収率の向上を図る。
一次評価	②コストは現状維持し、成果を拡充	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	来年度からの「水道料金収納等業務委託」では、令和5年度から給水係業務の一部委託化及び令和7年度からは、維持系の現場業務について段階的に委託業務に引き継ぐことにしている。民間委託化により、今以上の人件費の削減、技術の継承を進め、住民サービスの向上を図る。
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入			
最新技術導入（人工衛星、AI）を活用した埋設管の漏水調査、劣化予測診断などをの導入検討のため視察を行った。既設マッピングの不要箇所の削除や、データ更新については業者にて随時行い、窓口業務など支障なく行えた。また、漏水調査や緊急修繕などにも活用し、漏水の早期発見・修理を行えた。			

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★	
〔成果〕	漏水調査及び緊急修繕業務を行うことにより、漏水の早期発見・修繕が行え、漏水・無効水量を減らしたが、今年度の調査区域外果での漏水等により、有収率の現状維持はできなかった。
〔課題〕	現在の漏水調査の手法では、単年での漏水の発見数が伸びず、有収率向上も伸び悩んでいる。

9. 今後の事業の方向性と改善策	
成果の方向性	〔理由〕 現在の漏水調査の手法は、大規模断水の発生はなく一定の評価ができるため計画的に実施していく。
拡充	
コスト投入の方向性	〔理由〕 現行の漏水調査手法ではこれ以上のコスト削減・効率化は見込めないことから、現状維持が必要である。
現状維持	
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	調査予算の総枠は変えず、発見率の高い路面音聴調査の割合を各戸音調より増やすことにより、早期発見件数を増やし、無効水量を削減し、有収率の向上、配水管等の長寿命化へつなげたい。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	新技術の人工衛星やAIを活用した調査について、開発メーカーや他事業者の調査結果・効果などを確認・調査をし、より有効な漏水調査を導入していきたい。

評価変更理由	成果の方向性	・「成果の方向性」「コスト投入の方向性」ともに1次評価のとおりとする。 ・成果の拡充内容を課内で設定、整理することを条件として、拡充とする。なお、拡充の内容により、必要であると判断した場合にはコストの拡充も認めることとする。
	拡充	
	コスト投入の方向性	
	現状維持	